

不登校児ら「転地教育」

不登校児や引きこもりの青年を留学させて復学に導く「転地教育」をしている語学学校が、不登校に悩む孫とその祖父母の留学を企画した。7月に出発する参加者を募集している。「いじめに悩む子を留学させたい」「1人では心配」「留学が夢だった」という親子やシニアの希望を取り入れた企画。関係者は「祖父母と孫のほどよい関係が、外国でも効果をもたらすはず」と話している。【田後真里】

祖父母と一緒に留学



昨年、ニュージーランドで開かれた「孫と留学」の参加者「カナディアン・アカデミー」提供

企画したのは84年設立の語学学校「カナディアン・アカデミー・セタガヤ」(世田谷区新町2、難波三津子校長)。期間は2週間以上で、提携校のあるニュージーランド、カナダ、英国でホームステイをしながら語学学校に通う。費用は授業料、ホームステイ代などを含みペアで1週間24万円。渡航費は別途必要になる。アカデミーでは、87年ごろからフリースクールとして日本の教育にじじめない児童・生徒や青年に学びの場を提供し、家族と協力しながら問題解決に取り組ん

できた。さらに、海外留学という「転地療法」も提案し、海外の学校での就学につなげてきた。

今回の企画は、アカデミーが03年から始めている「孫との短期留学」の「不登校生徒版」。留学先で語学がでなくても、シニア

「過干渉な親より適任」

世田谷の語学学校企画

世代は必死に思いを伝えようとする。彼らは恥じらう孫とホストファミリーをつなぐなど、さまざまな問題を克服。難波さんは「シニア世代は、不登校の子供たちの精神的な支えにぴったりの」と気付いた。昨年7月に約2週間、不

は孫を客観的に見ることができるとも良い。彼らが長年の人生経験で培ったコミュニケーション能力を発揮するのを見て、多くを学ぶことができるはず」という。申し込み・問い合わせは同アカデミー(03・3428・2444)。

今回の企画は、アカデミーが03年から始めている「孫との短期留学」の「不登校生徒版」。留学先で語学がでなくても、シニア

難波さんは「過干渉になりがちな親と違い、祖父母

登校の中学1年の孫(12)とニュージーランドに留学した世田谷区内の女性(71)は「いじめに遭って自信を失っていた孫が、『おばあちゃんと一緒に』と一歩踏み出し、留学の最後にはクラスのみなの前でスピーチまでできた」と喜ぶ。孫は現在、フリースクールに通いながら、元の中学に登校するための準備中という。